



CSR

Corporate Social Responsibility

レポート2016



Topic①
トップコミットメント
三菱製紙販売の未来に向けて

Topic②
CSRビジョン

Topic③
特集1 FSC®・国内森林保全

Topic④
特集2 ステークホルダーとともに



三菱製紙販売株式会社 取締役社長

牛島 光夫

トップコミットメント

需要構造の変化に合わせて 進化・成長するために

当社は、三菱製紙グループのブランド力を基盤として紙や紙にまつわる商品を社会へ提供し、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまとともに、100年以上の歴史を紡いでまいりました。世界的な金融危機や未曾有の被害をもたらした大震災など、その歴史の中にはさまざまな波乱がありましたが、状況の変化に合わせて進化する適応力とお客さまとの強固な信頼関係があったからこそ、これらの荒波を乗り越えることができたのだと感じています。

今後広告宣伝媒体の電子化や少子化により洋紙の国内市場は縮小が続くと考えられています。そのような厳しい状況を乗り越え、さらなる成長を遂げるため、当社は本年4月より新中期三ヵ年経営計画をスタートさせました。継続的に安定した収益を上げられる体質に変革を遂げ、成長を続けることを目標に掲げ、それを達成することがステークホルダーの皆さまと社会へ貢献することに繋がり、

同時に当社と三菱製紙グループの企業価値を高めるものであるという考えのもと、全社一丸で挑んでまいります。

事業を通して持続可能な 社会の実現に貢献するために

新中期三ヵ年経営計画の重点課題として、三菱製紙品を中心とした洋紙販売事業を主軸に、着実に成長しつつある環境事業やSafety&Health事業のさらなる発展、新規事業の早期具現化など、新たな収益の柱を生み出すことを挙げています。それぞれを強力に推進していくと同時に、CSVの視点をベースとしてお客さまや社会が抱える問題を解決していくことをめざします。

「環境」と「安心・安全」をキーワードにした事業は当社の強みのひとつです。国内の洋紙代理店として初めてFSC®森林認証を取得したことを皮切りに、間伐材の有効活用を通じた森林保全、使用済み紙製品の循環システム構築など、環境事業に積極的に取り組んでまいりました。

変革と成長に挑み、 事業を通して持続可能な 社会の実現に貢献します。

また、東日本大震災における被災体験から立ち上げた Safety&Health事業では、非常用携帯トイレやハンズフリー救護担架（イージーレスキュー）等の販売だけに留まらず、防災計画の提案を始めとした防災体制構築のお手伝いなど、幅広いサービスを展開しています。こうした事業を拡大することは当社が社会的責任を果たし、社会が抱える問題解決に貢献するためのひとつの形であると考えています。

加えて、コンプライアンス・ガバナンスを重視する姿勢も貫いてまいります。なかでも法令順守は欠かすことのできない重要なテーマです。信用を失墜することのないよう、適正かつ効率的な体制を構築し、社内統制を強化してまいります。

ステークホルダーの 期待に応えるために

2001年に制定した環境方針に掲げているように、事業を通して社会に貢献するということは当社の命題ですが、そのためにまずは従業員ひとりひとりがやりがいを持って

働き、自己実現できる会社であるということが極めて重要だと考えています。育児・介護休業制度の充実や時間単位年休制度の導入など労働環境の整備を進めるとともに、障がいがあったり、育児・介護のため時間の制約があったりと、多様なバックグラウンドを持つ従業員ひとりひとりが力を発揮できる環境作りに取り組んでいます。多様な価値観を共有することで従業員の成長を図ってまいります。

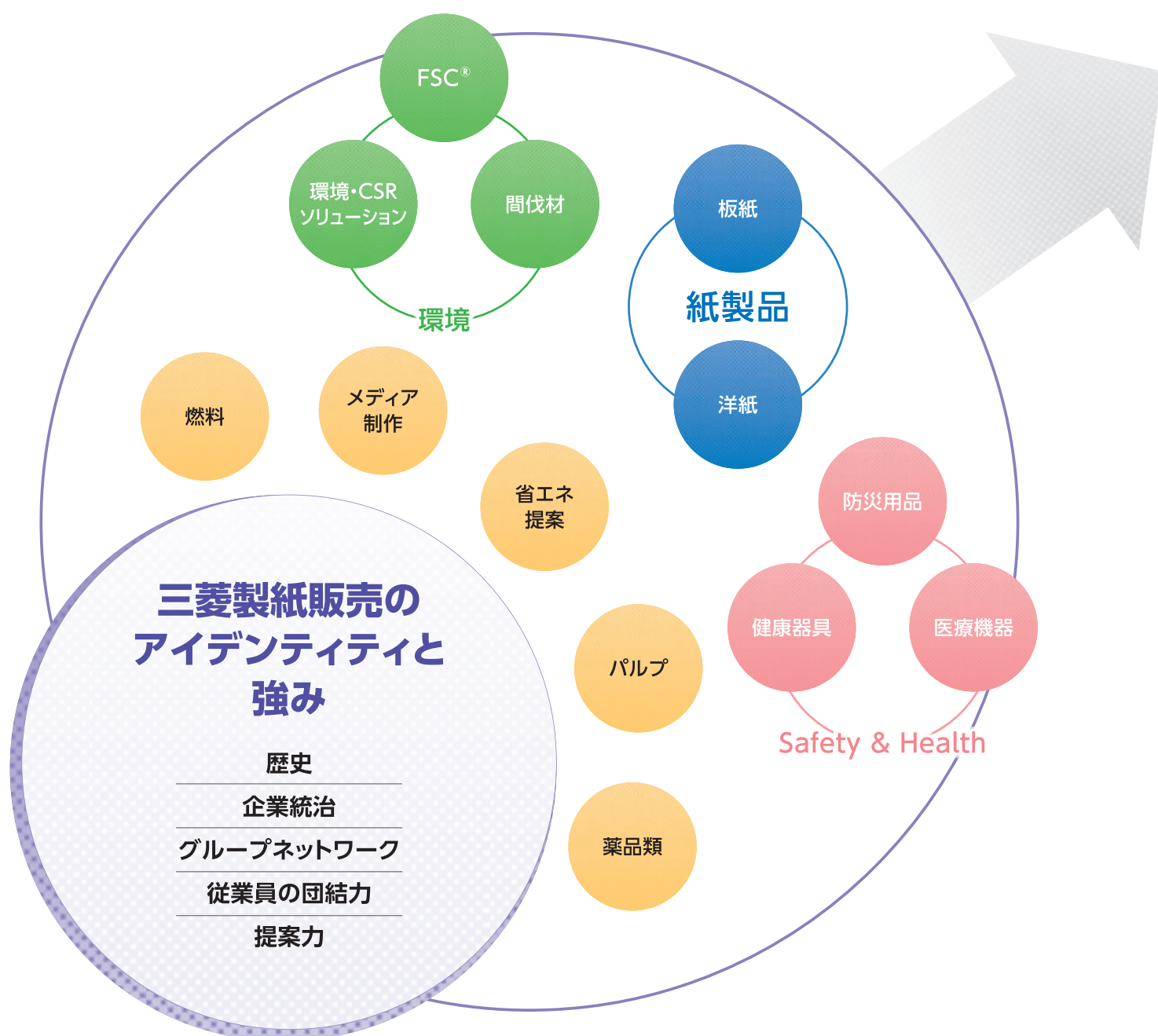
また、「環境」をキーワードとして、地域や学校と連携を深めることで、社会に貢献できる企業をめざした取り組みも行っています。事業所のある地域において環境イベントに参加したり、環境をテーマに活動する大学生との連携などを行い、持続可能な社会の実現に向け、さまざまな活動を進めています。森の恵みを活用する企業として、「次の世代のこどもたちのために」というスローガンのもと、森林の保全や森の循環に向けて地域の皆さま、未来を担う学生やこどもたちと協同して取り組む活動は、必ず当社のめざすサステナブルな社会に繋がっていると信じています。

当社は、さまざまな立場のステークホルダーの皆さまとともに、よりよい未来をつくることをめざして、これからも着実に歩みを進めてまいります。

CSRビジョン

事業を通じて実現する未来社会

三菱製紙販売のCSRは、100年を越える歴史に培われたアイデンティティと強みを活かし、環境問題への対応、社会との関係、企業統治のそれぞれの側面でバランスに配慮しながら、信頼を得るために果たすべき自主的な取り組みです。ステークホルダーの皆さまの要望や期待を通じて社会と企業活動における課題を認識し、その解決に努めます。このような活動を発展させ、拡大させていくことが、当社の企業価値を高め、事業を通じて社会と当社の持続的発展につながると考えています。



三菱製紙販売の ステークホルダー

地球環境・ 将来世代

地球環境・将来世代に提供する価値

地球環境を健全な状態に保ち、次の世代に引き継ぐことが人類全体の課題であることを認識し、「循環」「共生」「参加」を基調とした持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

地域社会

地域社会に提供する価値

地域社会の一員として、地域の発展に貢献する活動を推進します。特にコミュニティづくりを推進し、地域社会におけるコミュニケーション機会の充実をめざします。

お客さま (販売先)

お客さま(販売先)に提供する価値

お客さま(販売先)のニーズに柔軟に対応して信頼関係を高め、社会の変化をいち早く察知した商品・サービスを提案することで、お客さま(販売先)とともに新たな未来社会の創造をめざします。

お取引先 (仕入先)

お取引先(仕入先)に提供する価値

公平で公正な取引を通じて、お取引先(仕入先)との信頼関係を構築し、互いに切磋琢磨する良きパートナーとして、新たな価値を提供する商品・サービスを創造します。

商品・サービスを通じてステークホルダーとともにめざす未来社会

三菱製紙販売は、事業を通してお客さまや社会が抱える課題解決に貢献していくことにより、すべての人が笑顔で、安心して暮らせる持続可能な社会の実現に挑戦します。

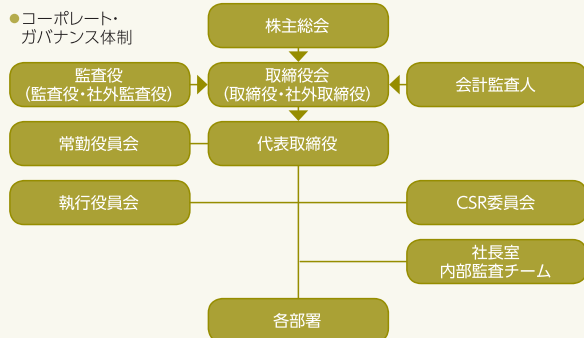
従業員

従業員に提供する価値

従業員がやりがいを持って働き、自己実現できる会社をめざします。一人ひとりが変わり続ける市場ニーズを捉え、主体的に仕事に取り組める職場環境を実現します。

推進体制

- コーポレート・ガバナンス体制

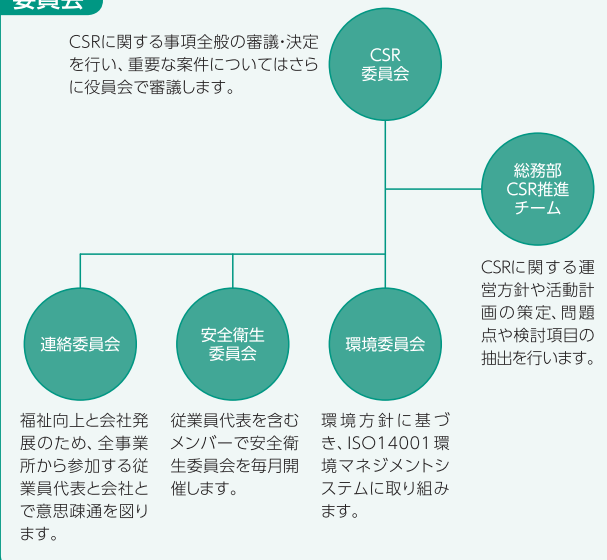


ホットライン

- 三菱製紙グループホットラインを社内の誰でも利用することができます。
- 社内で法令違反、不正行為、企業倫理上問題となりそうな事項が認められるとき
- 会社の事業活動、職場での各種業務活動に対する改善のための意見・提言を会社 に伝えたいとき

委員会

CSRに関する事項全般の審議・決定を行い、重要な案件についてはさらに役員会で審議します。



特集1 FSC®・国内森林保全

FSC森林認証制度

FSC (Forest Stewardship Council®:森林管理協議会) は、森林管理および木材製品の製造・流通過程の評価、認定、監督を行う国際機関 (NGO) のひとつです。適切に管理された森を「FM認証」で、適切な管理のもと加工・流通を行う事業者を「CoC認証」で評価し、その2つをつなぐルートを通して商品化されたことをFSCマークが証明しています。そのルートを通らない場合はマークの使用が認められません。つまり、FSCマークの製品を選ぶだけで、「適切に管理された森」を応援することにつながります。



FSC応援プロジェクト



ブログサイトでは、FSC製品を扱う企業や一般消費者の声を発信しています。
FSC応援プロジェクト: <https://shitte-erabo.net>

FSCは世界中で認められている森林認証制度のひとつでありながら、日本では一般消費者にあまり知られておらず、いかに認知度を高めるかが課題となっています。

その課題に取り組むため、当社は環境事業のひとつとして2013年にFSC応援プロジェクトを発足。ブログサイトとフェイスブックページを運営し、多くの方にFSC森林認証制度に関する情報発信を行っています。また、FSC製品を扱う企業をご紹介します、企業同士の連携も進めています。これまで、東京スカイツリータウンにあるすみだ水族館とコラボしたワークショップを実施したり、檜原村でFSCの森をお持ちの田中林業株式会社 (東京都檜原村) にご協力いただき、森林の恵みを感じるキャンプを開催するなど、さまざまな企画を行っています。

これからも、いろいろな方法でFSCを身近に感じてもらうことができる機会を皆さまに提供していきたいと考えています。

エコシステムアカデミー

三菱製紙グループは「森をめぐる循環」をテーマにエコシステムアカデミーを運営しています。体験型学習／環境セミナー／森の調査・研究の3つを柱として、学校、自治体、市民、企業の皆さまに向けて積極的に活動しています。

当社はエコシステムアカデミーの運営において重要な役割を担っており、特集1の「FSCフォレストウィーク」や特集2でご紹介する大学、自治体とのイベントでは当社従業員が主体となって企画、参加しています。

■ FSCフォレストウィーク

FSCの本部はドイツにあり、FSC FM認証は82カ国(1,427件／日本国内33件)、FSC CoC認証は120カ国(31,273件／日本国内1,091件)へと普及し(FSC Facts&Figures October7,2016)活動の輪は世界中に広がっています。

FSC森林認証制度の認知度向上を目的として、毎年9月の最終金曜日に世界各国で実施されているイベント「FSCフライデー」。

日本では「FSCフォレストウィーク」と称して約1カ月に渡って、主催のFSCジャパン、共催団体WWFジャパンとともに、参加企業がさまざまな企画・イベントを開催しています。

今年も2016年9月1日(木)から30日(金)までFSC森林認証普及キャンペーン「FSCフォレストウィーク2016」が開催され、それに合わせて、エコシステムアカデミーでは9月22日(木)にFSCをもっと身近に感じて知ってもらうため、FSC森林認証を取得している田中林業株式会社を会場として、森林整備体験を中心としたイベントを実施しました。



参加人数は総勢16名。あいにく雨となってしまいましたが田中林業(株) 田中社長のご指導の下、森林整備に必要な道具の手入れやのこぎりを使った丸太切りを実施。適切に森を管理するとはどういうことなのか、その一部を知ることができました。その後も、森林散策でFSCの森を歩いたり、FSCの森から間伐した薪を使ってピザ焼き体験をしたりしました。FSCの森にまつわるさまざまな体験を通して森を身近に感じることができ、良い機会となりました。

今回のイベントについて、FSC森林認証制度普及活動の一環としてFSC応援プロジェクトのブログにも掲載しています。当社は、国内の紙流通業界で最初にFSC森林認証を取得しており、今後もその強みを活かして社会に貢献していきたいと考えています。



特集2 ステークホルダーとともに

■ 工学院大学 わくわくサイエンス祭 科学教室

工学院大学は、「持続型社会をささえる科学技術」をめざすことを理念としており、その具体化策のひとつとして2001年からISO14001の認証を取得しています。環境ISO学生委員会の皆さんとはエコプロダクツ2015にて当社が同委員会のブースを訪問したことをきっかけに、情報交換会や当社と交流のある田中林業株式会社への訪問を実施するなど、関係を築いてきました。(✓)



さらに、2016年8月にはこうした連携の一環として、工学院大学が主催する「わくわくサイエンス祭 科学教室」で、同委員会の皆さまの演示テーマをサポートさせていただくこととなりました。

「科学教室」とは、工学院大学が社会貢献活動のひとつとして、青少年の教育支援および科学教育振興のために行っているイベントで、八王子キャンパスを会場に開催され、今年で23回目となりました。毎年約8,000人が来場し、80テーマほどの理科・科学実験を楽しんでおり、これは大学が開催するものとしては多摩地区最大級の科学イベントです。また、工学院大学では、この科学教室をアクティブ・ラーニングの手法を用いた教育実践プログラムのひとつとして位置づけており、多くの学生が「企画・運営」や「教える側」として参加することにより、研究者・エンジニアとして必要な企画力・技術力・コミュニケーション能力を成長させる場でもあります。(✓)



当社は、演示にあたって森林保全や紙抄きに関する事前説明を実施。それらをもとに、委員会の皆さまが説明用資料の作成や、演示スケジュールの組み立てなどを行い、当社は完全にサポート役として本番に臨みました。演示には、科学に関心のある子どもたちに多数ご参加いただき、運営を行う学生たちもボランティアでありながら高い意欲を持って取り組んでおり、当社が考える森の循環や恵みについて、多くの方に伝えることができました。

また、当社が学生たちにレクチャーを行い、レクチャーを受けた学生たちが子どもに伝えるという構造は、当社が掲げる「次の世代の子どもたちのために」というテーマとも親和性の高いものであったと考えています。今後も科学教室をひとつの軸として、多角的な連携を検討していきます。

環境ISO学生委員会からの声

学生責任者として参加をさせていただきましたが、科学教室による委員会メンバーの成長を感じ取ることができました。私自身も学ぶことが多く、今後の活動や将来に繋げていきたいと考えています。



■ 千葉大学 間伐材シャープペンシル共同開発

千葉大学では、2003年に環境ISO学生委員会を発足させ、2007年にはすべてのキャンパスでISO14001認証を取得。2009年には同委員会をNPO法人とするなど、以前から環境に対する取り組みを進めています。当社は、同委員会の皆さんと2015年8月に情報・意見交換を目的としたディスカッションを実施し、産学連携に向けた取り組みをスタートさせました。



取り組みのひとつである間伐材の利用促進では、同委員会が国内の森林から発生した間伐材を用いたシャープペンシルを制作し、千葉大学生協の協力を得て、2016年1月27日より販売しています。3月には同委員会が地域の子どもたちに向けて実施する環境教室に当社も協力するなど、連携の幅を広げています。これからも環境保全をテーマにさまざまな協働を進めていきたいと考えています。



■ 静岡県 ものづくりフェスタ2016 in しずおか

県土の3分の2を森林が占めている静岡県。日本三大人工美林に数えられる「天竜の森」、ユネスコエコパークを構成する南アルプスの天然林、景勝地として知られる三保の松原の防風・防砂林など、さまざまな森林を有しています。静岡県は、この豊かな森林を守り、育て、活かすため、「森林との共生」に向けた取り組みを積極的に進めています。持続可能な森林管理の実現に向け、森林認証の取得を推進するさまざまな取り組みを行っています。

静岡県とは昨年のエコプロダクツをきっかけに情報交換を行うなど関係構築を進め、9月3日開催「ものづくりフェスタ2016 in しずおか」において森林計画課の出展に協力

することとなりました。ブースにご来場いただいた子どもたちには、始めに県庁の担当者から静岡県の森林や森林の働きについて簡単な講義を実施。その後、森の恵みを実際に感じてもらうため、当社が紙抄き体験を提供しました。体験は全5回の予定でしたが、各回あつという間に定員となり、急遽1回分追加開催するなど盛況で、県民の皆さまの森林に対する意識の高さもうかがえました。

森林の活用を通して「持続可能な社会」を実現し、豊かな自然を未来に引き継いでいこうというテーマは、当社のめざすビジョンと重なります。森の恵みを扱う企業として、今後もさまざまなかたちで協力していきたいと考えています。



■ 株式会社学研プロダクツサポート GPSカンパニー展

株式会社学研プロダクツサポートは、同社と取り引きするさまざまな企業と企業を結び付けるきっかけをつくりたいと「GPSカンパニー展」を開催しています。

当社が取り扱う間伐材グッズが第5回の開催テーマ「知育・教育・食育」に合致するというので、お声掛けをいただき、出展させていただくこととなりました。

ただ商品を並べるだけではなく、間伐材グッズを提案する意義や、企業や学校法人との取り組み事例をパネル展示するなど、来場される方々に当社がなぜこのような事業を行っているのかをご理解いただけるような内容にしました。

また、間伐材グッズ以外に事前防災の重要性もお伝えしたいと考え、当社がSafety&Health事業で取り扱っているイーザーレスキュー、携帯トイレなどの防災用品の展示も行いました。

これからも、さまざまな方法で当社の取り組みをご紹介していきたいと考えています。



社員の声 春野広己

ただ商品をアピールするだけでなく、当社としてどうしてこの商品を提案するに至ったのか、なぜこの取り組みを続けているのかを説明することで、当社の活動をわかりやすく紹介できたと思います。たくさんの方にブースにお越しいただき、さまざまなご意見を頂戴するなかで、私自身も自社の取り組みに対する理解をより深めることができました。



■ キリン株式会社 FSC®認証紙を使ったペーパークラフト

なかのZEROで開催された「こどもフェスティバル2016」において、キリン株式会社協力によるペーパークラフトができるワークショップが開催されました。

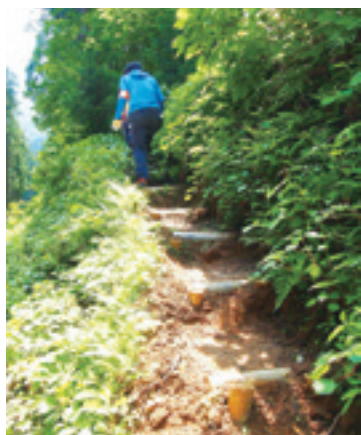
当社はペーパークラフト用にFSC認証紙を提供するとともに、FSC森林認証に関するパネル展示で協力しました。

来場した皆さまに、ペーパークラフトを楽しみながら、FSC森林認証についても知っていただける貴重な機会になったと思います。

環境への取り組みを積極的に行う同社。今後もさまざまなかたちで連携していきたいと考えています。



■ 田中林業株式会社 森林整備ボランティア



東京都檜原村にある田中林業株式会社はFSCの森をお持ちです。このFSCの森はFM認証を取得して適切に管理されており、森の中は明るく、どの場所も地面まで優しく陽の光が届き、森に住むさまざまな生き物と出会うことができます。

FSC認証品を取り扱う当社にとって、FSCの森を自分の目で見て、知り、学ぶことは非常に重要です。同社のご協力のもと、この森で2014年度より月1回、当社の従業員が下草刈りや、遊歩道の整備、清掃などのボランティア活動を行っています。

2016年は間伐にも挑戦し、その間伐材を使って遊歩道に階段を作るなど、少しずつ活動の幅を広げてきました。

森林保全に対する理解をより深めたいと始めた整備作業ですが、森から学ぶことは限りがありません。これからもこの活動を大切に継続していきたいと考えています。

■ 東京都中央区 エコまつり

中央区では、「知ろう!やろう!私たちにできるエコ」をテーマに、環境問題全般について子どもから大人まで楽しみながら学べる体験型環境イベント「エコまつり」を毎年開催しています。

中央区保健所とあかつき公園を会場に、区内の環境活動団体をはじめ、事業者など、20近くの出展者がそれぞれの環境活動の紹介をしています。

今年、当社は初めて「エコまつり」に出展。出展内容は、ワークショップ「カラフル葉っぱアート®」とFSC森林認証制度についてのパネル展示です。

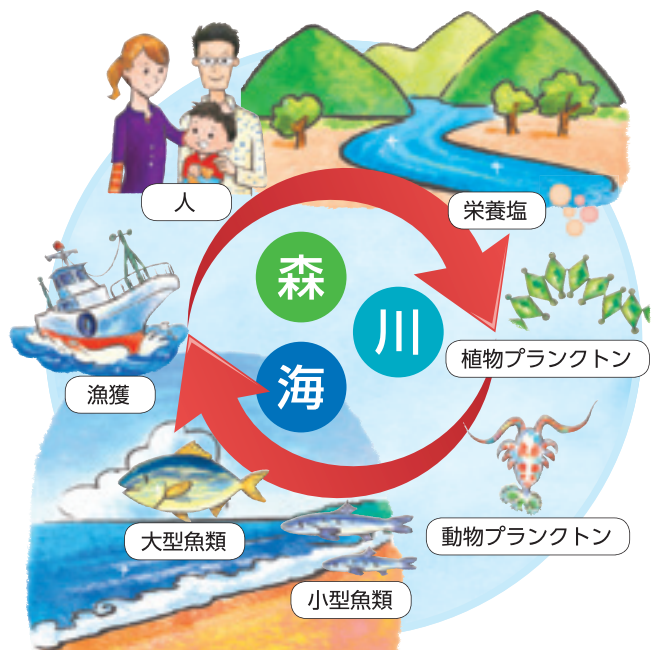
「葉っぱアート」とは、葉っぱを画用紙に糊付けして魚を描くワークショップのことで、クリエイティブディレクターの本田亮氏と株式会社フレーベル館が協力して実施しています。

手入れされた森は雨水による土砂の流出を防ぎ、水を貯え、落ち葉は養分となり魚が求めるプランクトンを増やします。森は豊かな命を育む循環の一部なのです。

楽しみながら森と海との関係について学べる教材として今回は「葉っぱアート」をお借りしました。

これからも、FSC森林認証制度の認知度向上に貢献するとともに地域とのつながりもよりいっそう深めていきたいと考えています。

「カラフル葉っぱアート」は株式会社フレーベル館の商標登録です(登録第5845489号)



■ 中央区立環境情報センター CSR/CSVリレーセミナー・もりもりフェスティバル

CSR/CSVリレーセミナー

本店のある東京都中央区の環境情報センターが主催するCSR/CSVリレーセミナーは、年に4回開催され、区内に事業所のある多数の企業が参加し、それぞれのCSR・CSV活動を紹介し、意見交換を行います。

当社も第2回開催の際にプレゼンの機会をいただき、FSC認証紙の紹介、三菱製紙グループのエコシステムアカデミーと連携し行っている紙抄き体験の出前授業など、社会貢献活動の紹介をさせていただきました。

当社のようなBtoB中心の企業は、取り組んでいる環境活動をどのように社会に広げていくのが課題です。同セミナーに参加される方々の意見や事例はとても参考になっています。

もりもりフェスティバル

環境情報センターにて7月24日(日)～31日(日)に開催された、「もりもりフェスティバル2016」に森林保全に関するパネル展示で協力しました。

子どもたちに森林保全の重要性やFSC森林認証制度について知ってもらうことのできる、貴重な機会となりました。



「もりもりフェスティバル2016」展示パネル

コミュニティへの参画及び発展

■ 山王祭

2年に一度6月に開催される、江戸時代から続く天下祭り「山王祭」。日本橋、京橋周辺を中心に大通り・路地を問わず、各町会の「町神輿」が盛大に練り歩きます。そのような伝統あるお祭りに、当社は今年初めて参加しました。



数々の神輿が躍動し、色とりどりの半纏が舞うなか、従業員有志が本店所在地である「京橋二丁目東町会」の半纏をお借りし、神輿を担ぎました。初めて神輿を担いだ従業員も多く、勢いに圧倒されつつも京橋地域を周回し、わずかではありますが、地域に勤務されている方や、近隣にお住まいの方々とふれあうことができました。

今後もさまざまな活動を通じ、日頃お世話になっている京橋地域の方々とご一緒させていただきたいと考えています。



■ 清掃活動

町内会清掃活動

本店のある京橋二丁目東町会では、京橋二丁目で暮らす人、働く人、訪れる人々に正しいマナーを身に付けてもらえるように、隔月毎に定期町内清掃を行っています。当社も毎回参加し、町内の環境美化に取り組んでいます。

まちかどクリーンデー活動

中央区では「住みたい、働きたい、訪れたい」清潔で美しいまちをめざして、身近な場所の清掃を呼び掛けています。当社は会社周辺の道路を中心に従業員が定期的に清掃を行っています。



■ NPO法人はな街道



NPO法人はな街道は日本国道路元標がある名橋日本橋を拠点とする中央通りをよりきれいな四季折々の花で飾り、国際都市東京のメインストリートにふさわしい「景観の保全」と「さらなる賑わいの創出」をめざして活動しています。当社は「花奉行」としての支援とともにクリーンウォークや花植えのイベントに参加しています。

■「緑の募金」飲料自動販売機



公益社団法人 国土緑化推進機構が推進する国民運動「フォレスト・サポーターズ」の活動の1つに「緑の募金」があります。「緑の募金」は、誰でも気軽に寄付という形を通じて、身近な地域や国内外のさまざまな“森づくり”に参加することができる仕組みです。

当社では、本店と大阪支店に設置した自動販売機の売上金の一部が、「緑の募金」として国内外の“森づくり”に役立っています。気軽にできる社会貢献として、今後も継続していきたいと考えています。

■ WWFジャパン法人会員

WWFは「人類が自然と調和して生きられる未来」を理想として掲げる環境保全NGOです。日本におけるWWFの目標は「生物の多様性を守る」「再生可能な自然資源の利用を、持続可能なものにする」「環境汚染、および資源・エネルギー」です。これらは当社の「次の世代の子どもたちのために」というテーマと多くの部分が共通しています。当社ではWWFジャパン法人会員となってその活動を支援しています。



公正な事業慣行・消費者課題

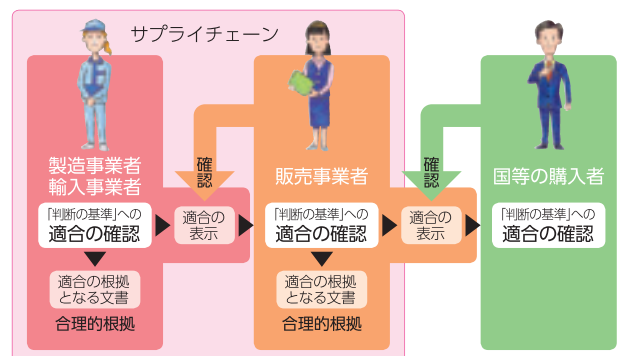
■ コンプライアンス研修

三菱製紙販売行動憲章にかなった行動を取るために守らなければならない基準を、関連法令などや関連社内規則などと関連付けて具体的に規定しています。これを理解し実践できるように毎年、グループワーク形式で全従業員が参加するコンプライアンス研修を実施しています。

他にも、中堅管理職クラスには労務管理や内部統制、情報セキュリティ勉強会への参加を必須としています。また、内部統制、情報セキュリティ勉強会には一般職で希望する人も参加できます。

■ グリーン購入法古紙配合率監査

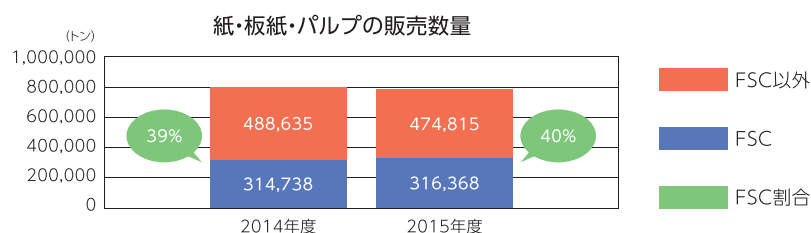
再生PPC用紙などの古紙パルプ配合紙類は、グリーン購入法の特定期間物品などの信頼性確保ガイドラインで、販売事業者は製造メーカーの古紙パルプ等配合率の適合判断を検証し情報提供の体制を整備することとされています。このため、製紙メーカーの古紙パルプ等配合率監査に立ち会い、表示と適合の根拠を確認しています。



■ 環境マネジメントシステム

2001年10月に本店でISO14001認証を取得。2002年10月には大阪、名古屋、東北、九州の各支店に認証範囲を拡大しました。

各部署が業務に即したテーマを選択し、環境改善活動に取り組んでいます。特に営業部署では環境方針に謳っている「森林保護」の実現に向け、FSC®認証紙の普及を必須テーマとして取り組んでいます。



■ 紙・パルプ類の調達について

当社は森林資源の保全のため、購入する紙・パルプ類に下記の木材に由来する原材料が含まれないように、最大限の努力をしています。

- ① 違法に伐採された木材
- ② 伝統的権利または市民権を侵害して伐採された木材
- ③ 高い保護価値が脅威にさらされている森林から伐採された木材
- ④ 植林地または森林以外の用途に転換されつつある森林から伐採された木材
- ⑤ 遺伝子組み換え樹木が植林されている森林からの木材

人権、労働慣行

■ 防災訓練

2015年度の総合防災訓練は、東京本店・大阪支店で同時期に実施し全店統一フローを作成、実施しました。

フローの内容

- (1) 初動対応訓練 (2) 被害状況報告訓練 (3) 指揮統制訓練 (4) 情報伝達訓練 (5) 避難訓練

大地震発生を想定し、的確な情報収集と伝達および自衛消防組織の指揮統制の確認、従業員避難を行いました。東京本店で105名、大阪支店で36名と半数以上の従業員が参加し防災意識の高さがうかがえました。

総合防災訓練の他にも毎月行っているチームリーダー研修のなかでイージーレスキュー（ハンズフリー担架）の体験講習を実施するなど、全社一丸となって災害対策を行っています。



■ 人間の尊重

三菱製紙販売行動憲章に人間の尊重、三菱製紙販売コンプライアンス行動基準に人権尊重、差別禁止、ハラスメント防止の項目を設け、すべての従業員がこれを理解し行動することによって、働きやすい職場環境をつくっています。全事業所、全従業員を対象として定期的に人権啓発研修を実施しています。

■ 育児・介護休業制度

当社では、育児・介護休業制度や時間単位年休制度を設け、さまざまなかたちで従業員の仕事と家庭の両立を支援しています。また、時短勤務制度(1日6時間)については、子どもの小学校就学まで取得できることとし、法令基準を上回る制度で運用を行っています。

今後もすべての従業員が子育てや介護をしながら働き続けることができる職場環境をめざした整備を進め、ダイバーシティの尊重を推進していきます。

	2013年度	2014年度	2015年度
育児休業取得実績	3	4	2
介護休業取得実績	0	0	0

社員の声 宮本美奈子

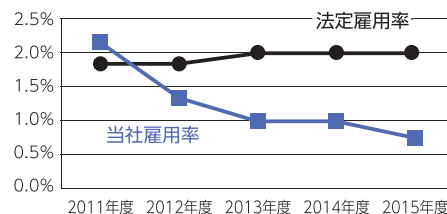
2014年に第一子を出産し、育児休業制度を利用、2015年11月に職場復帰しました。職場には制度を利用して働く先輩社員が多く、出産して職場復帰することに不安はなく、寧ろ心強く感じていました。

今後も、育児や介護と仕事を両立させて働く従業員は増えていくことと思います。私自身も、すべての従業員が働きやすい環境を整えるための一翼を担うことができると考えています。



■ 障がい者雇用

東日本大震災以降採用を見送っており、その期間に退職者が出たため法定雇用率が未達となりました。しかしながら、2016年度より採用再開と同時に障がい者雇用を促進、「障害者就業・生活支援センター」であるNPO法人WEL'S TOKYOのご協力もあり、新たに2名を採用することになりました。今後も雇用拡大に向け、障がい者が安心して働けるような職場環境を整備してまいります。



■ 再雇用実績

「改正高年齢者雇用安定法」の施行に伴い、再雇用制度を導入しています。この制度により定年をむかえた従業員の雇用を確保しています。多様な人材の活躍を支援するとともに、豊富なノウハウを次世代へ引き継ぎます。

	2013年度	2014年度	2015年度
再雇用実績	12名	12名	13名

■ メンタルヘルス

ストレス診断を中心とした予防・早期発見、退職者・復職者支援などのサービスを提供する窓口を設置し、いつでも相談できるような環境を整備しています。

事業所一覧

	住 所	電話番号	FAX番号
本 店	〒104-8372 東京都中央区京橋二丁目6番4号	03-3566-2300	03-3566-2339
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町一丁目3番9号	06-6271-2271	06-6261-9290
名古屋支店	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋ダイヤビル	052-563-7561	052-563-6857
東北支店	〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野一丁目11番1号 ダイアミックビル	022-295-7710	022-295-7730
九州支店	〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目15番6号 綾杉ビル	092-771-1531	092-714-7197
八戸出張所	〒039-1161 八戸市大字河原本字北沼	0178-29-2551	0178-29-2751
札幌出張所	〒060-0063 札幌市中央区南三条西十丁目1001番5 福山南三条ビル	011-271-3555	011-271-3557

お問い合わせ先 総務部CSR推進チーム TEL：03-3566-2300 FAX：03-3566-2339

CSRレポートWeb版

<http://www.mitsubishi-kamihan.co.jp/>

右記QRコードからもアクセスできます。▶

